２　地域ごとの特色

（1）　鹿児島地域

黒川洞穴（県指定史跡）

鹿児島地域は，鹿児島市，日置市，いちき串木野市，三島村及び十島村の３市２村で構成されています。３市は県本土西側の中央部に位置し，東西は雄大な活火山・桜島を抱く鹿児島湾と東シナ海に面し，南北は金峰山や熊ヶ岳と八重山や冠岳等の山地に面しています。なお，「桜島」は県指定の名勝になっています。

鹿児島市内には，稲荷川，甲突川，新川，脇田川等の河川によってもたらされた堆積物が形づくった三角州性の平野がありますが，この平野の周囲には溶結凝灰岩からなる吉野台地や，いわゆるシラス台地である紫原台地等が広がっています。

三島村は，種子島の西方に位置しています。約 7,300 年前に噴火し，南九州全体に大きな傷跡を残した鬼界カルデラの歴史が刻まれ，特異な地形を楽しむことのできる島々です。

十島村はトカラ列島の島々からなり，中之島の御岳及び諏訪之瀬島の御岳は現在でも噴煙を上げ活動する活火山です。口之島から悪石島までの各島は，火山特有の地形であり，周囲は断崖絶壁に覆われ起伏が激しく平坦地が少ない地形です。小宝島・宝島の両島は，珊瑚礁が隆起した島であり，山も低く平坦地も多くあります。

鹿児島地域には，旧石器時代から近代まで，多様な歴史を裏付ける特徴的な遺跡が数多くあります。主なものとして，旧石器時代は約 29,000 年前の姶良丹沢火山灰層の下位及び上位でナイフ形石器等が出土した帖地遺跡，縄文時代は草創期の隆帯文土器が出土し国内最古級の住居跡が確認された掃除山遺跡，後期の代表的な貝塚で市来式土器の標式遺跡となった「市来町市来貝塚」，同じく晩期の黒川式土器の標式遺跡となった「黒川洞穴」，古代は大量の墨書土器が出土した市ノ原遺跡等の遺跡が挙げられます。また，縄文時代から中世にかけて連綿と営まれ，古墳時代の河川祭祀や古代の蔵骨器を伴う火葬墓等の多数の遺構・遺物が確認された不動寺遺跡や，縄文時代中期から古墳時代にかけての集落跡や近代の鹿児島県師範学校関連の資料が出土した武遺跡等も特筆されます。

仙巌園　附　花倉御仮屋庭園
（国指定名勝）

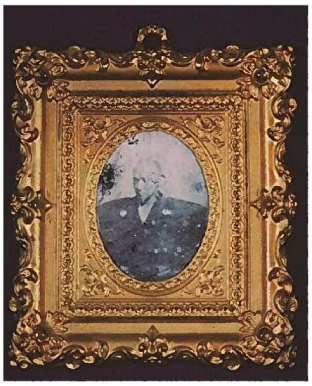
また，悪石島と小宝島の間にある渡瀬線は，考古学的にも本土的文化圏と南島的文化圏の境界域と考えられています。一方で，十島村の宝島に所在する大池遺跡や中之島のタチバナ遺跡では，九州本土の土器と南西諸島の土器の両方が出土しており，トカラ列島では

独自の文化を持ちつつも東シナ海沿岸地域の文化伝播や交流があったことを知ることができます。

特に近世から近代にかけては，世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼，造船，石炭産業」の構成資産である「旧集成館」,「関吉の疎水溝」,「寺山炭窯跡」，日本遺産「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」の中核をなす鹿児島城跡とその城下，喜入旧麓，串木野麓等多くの歴史的・文化的遺産を有しています。令和２（2020）年３月には，明治６（1873）年に焼失した鹿児島城のシンボルである御楼門が復元されました。

「鹿児島城跡」に復元された御楼門

戦国時代に活躍した島津家や，明治維新で活躍した西郷隆盛・大久保利通等の人物に関わる文化財が数多く残っているのも特徴です。尚古集成館（しょうこしゅうせいかん）には，国の重要文化財に指定されている「銀板写真（島津斉彬像）一枚」や「犬追物（いぬおうもの）関係資料（島津家伝来）」等，県歴史・美術センター黎明館には，国宝「太刀銘　国宗」や国の重要文化財となっている「大久保利通関係資料」等があります。



銀板写真（島津斉彬像）一枚
（国指定重要文化財）
写真提供：尚古集成館

さらに鹿児島三大行事の一つであり，島津義弘が関ケ原の戦いで徳川方の敵中を突破し帰還を果たしたことを由来とする詣りや，県の無形民俗文化財に指定されている「吹上　大汝牟遅神社（おおなむち）の流鏑馬（やぶさめ）」，お田植え祭りとして有名なせっぺとべ，各地域に残る棒踊りや太鼓踊り等の歴史的な伝統行事が数多く残っているのも特徴です。

大汝牟遅神社の流鏑馬
（県指定無形民俗文化財）

三島村，十島村は火山の島，珊瑚礁の島，温泉の島と，様々な特色を持つ地域です。旧暦８月１日と２日に行われる「八朔太鼓踊り」は「薩摩硫黄島のメンドン」として，悪石島盆踊りは「悪石島のボゼ」として平成 29（2017）年に国の重要無形民俗文化財に指定され，ユネスコ無形文化遺産の構成資産にもなっています。

（2）　南薩地域

南薩地域は，枕崎市，指宿市，南さつま市及び南九州市の４市で構成されています。県本土の南西部に位置し，東は鹿児島湾に，西及び南は東シナ海に面しています。南西

端は坊・野間の小山系と沈降地形によるリアス海岸，背後に南薩台地の溶結凝灰岩台地が広がっています。枕崎市から南九州市に至る薩南海岸は，阿多カルデラの火山活動によって形成された景観や，火砕流堆積物と浸食作用による環状岩礁や波食棚といった特異な地形や砂浜等の多様な自然環境が評価され，薩南海岸県立自然公園に指定されています。また，九州最大の湖である池田湖，薩摩富士と呼ばれる開聞岳，県の天然記念物に指定されている「指宿市知林ヶ島のトンボロ」，日本三大砂丘のひとつである吹上浜砂丘，天に向かって剣のようにそびえ立つ双剣石が印象的な国の名勝「坊津」等を望む南さつま海道八景等の豊かな自然環境や良好な景観を有しており，その一部は霧島錦江湾国立公園に指定されています。

指宿市知林ヶ島のトンボロ
（県指定天然記念物）

阿多貝塚（国指定史跡）

清水摩崖仏（県指定史跡）

南薩地域には学史的に重要な遺跡が数多くあり，縄文時代草創期からの定住化を示す遺構・遺物が多量に出土した「栫ノ原遺跡」や，生業や食生活及び自然環境を知る上で重要な遺跡である「阿多貝塚」は，国の史跡に指定されています。また，縄文時代の標式遺跡である石坂上遺跡や深浦遺跡，縄文時代後期の標式遺跡であり玉製品の製作遺跡である上加世田遺跡等があります。弥生時代では，編年研究に重要な役割を果たし南海産貝交易の拠点となった「高橋貝塚」，縄文土器と弥生土器が初めて層位的に確認され国の史跡に指定されている「指宿橋牟礼川遺跡」等が挙げられます。また，古墳時代の南薩地域に特徴的な墓制である立石土坑墓が検出された成川遺跡や南摺ヶ浜遺跡，古代から中世の輸入陶磁器が多数出土し，万之瀬川河口域の当時の交易のありかたを示す持躰松遺跡等もあります。本地域には，南九州型城郭を代表する「知覧城跡」をはじめ，大規模な山城も点在しています。また，古代の須恵器窯跡群である中岳山麓窯跡群は，薩摩国府や国分寺への供給が目的とされており，当時の須恵器生産と流通を考える上で重要な遺跡です。

さらに，県の史跡に指定されている「清水磨崖仏」や，国の名勝に指定されている「知覧麓庭園」を有する知覧武家屋敷等の地域的な歴史を示す文化財も豊富です。

南九州市知覧伝統的建造物保存地区
（国選定）

南薩地域には，日本遺産を構成する麓として，知覧麓と加世田麓があり，「南九州市知覧伝統的建造物群保存地区」と「南さつま市加世田麓伝統的建造物群保存地区」が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

旧陸軍知覧飛行場防火水槽・給水塔
（国登録有形文化財）

太平洋戦争末期には，本県は本土防衛の最前線となり，知覧，万世の飛行場から，連日，特攻機が南の空へと飛び立ちました。その遺構として旧陸軍知覧飛行場の「防火水槽」，「弾薬庫」，「着陸訓練施設鎮碇（ちんじょう）」が国の登録有形文化財になっています。また，「知覧特攻戦没者の手記」も南九州市の文化財に指定されており，これらの文化財が世界平和の尊さを私たちに伝えています。

士踊
（県指定無形民俗文化財）

民俗文化財では，藁や茅で作った帽子と腰みのをつけて踊る幻想的な「ソラヨイ」に代表される「南薩摩の十五夜行事」が国の重要無形民俗文化財に，島津忠良が息子の戦勝を祝って踊らせたとされる「士踊（さむらい）」が県の無形民俗文化財に指定されています。また，金峰高橋地域に伝わるシュロ皮の仮面を被った大人が子どもたちを諭し，水難除けや集落の安全を願う「ヨッカブイ」や，230 余年も続く川辺二日市等の地域に根付いた伝統芸能や伝統行事が行われています。

（3） 北薩地域

北薩地域は，阿久根市，出水市，薩摩川内市，さつま町及び長島町の３市２町で構成されています。県本土の北西部に位置し，西は東シナ海に面し北は熊本県芦北地域・天草地域に接しています。地域内には，矢筈（やはず）山系，八重山山系，紫尾山系があり，その間に川内川流域部と出水平野部が広がっています。

また，雲仙天草国立公園，甑島国定公園，阿久根県立自然公園，藺牟田（いむた）池県立自然公園，川内川流域県立自然公園と，県内で最も自然公園の多い地域でもあり，県の名勝に指定されている「牛之浜海岸」や黒之瀬戸海峡の渦潮等，独特の自然景観も有しています。さらに，甑島には，国の天然記念物「甑島長目の浜及び潟湖群や植物群落」や化石の島とされる獅子島等の島嶼，ラムサール条約湿地に登録されている藺牟田池や出水ツルの越冬地

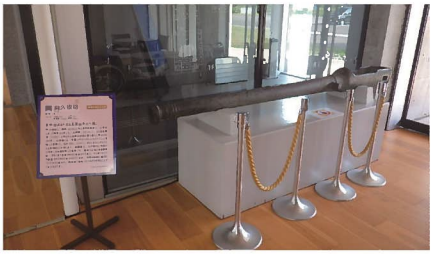
鹿児島県のツルおよびその渡来地
（国指定特別天然記念物）

もあり，豊富な水資源や広大な農地，豊かな森林資源，八代海・東シナ海の海洋資源等多様で豊かな自然環境に恵まれています。マナヅル・ナベヅル等の越冬がみられる出水ツルの越冬地範囲の一部は,「鹿児島県のツルおよびその渡来地」として国の特別天然記念物にも指定されています。また,宮崎県の「湯ノ宮の座論梅」,「高岡の月知梅」とともに三州三梅に指定されている「藤川天神の臥龍梅」は国の天然記念物に指定されています。

藤川天神の臥龍梅
（国指定天然記念物）

北薩地域の主な遺跡としては，本県で初めて発掘調査された旧石器時代遺跡として学史的に有名な上場遺跡，縄文時代の人骨が出土し後期土器の標式遺跡として出土遺物が県指定文化財にもなっている出水貝塚，勾玉等の玉製品の製作遺跡として知られる大坪遺跡等が挙げられます。また，古墳時代では貝輪を着装した人骨が出土し畿内地方との関係性を示す竪穴式石室を伴う「天辰寺前古墳」や同じく竪穴式石室を伴う鳥越古墳,「船間島古墳」，長島に群集する墳墓である「指江古墳」,「小浜崎古墳群」,「明神古墳群」等の積石塚や,在地の墓制である「薩摩町永野別府原古墳群」，溝下古墳等の板石積石棺墓（地下式板石積石室墓）群等が挙げられます。また,「薩摩国分寺跡」や「清色城跡」は本地域を特徴づける遺跡であり,国の史跡に指定されています。

明神古墳群
（県指定史跡）



阿久根砲
（県指定有形文化財）

川内大綱引
（国選択・県指定無形民俗文化財）

日本遺産を構成する麓としては，出水麓，入来麓，里麓及び手打麓の４つがあり,「出水市出水麓伝統的建造物群保存地区」と「薩摩川内市入来麓伝統的建造物群保存地区」が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

また,本地域には,国の重要文化財(古文書)に指定されている「新田神社文書(百二十四通）九巻，一枚」や，国の史跡に指定されている「鹿児島島津家墓所」を構成する「宮之城島津家墓所」等のほか，県の文化財に指定されている「阿久根砲」,「出水御仮屋門」等の有形文化財があります。さらに，400年以上の歴史を持ち重さ７トンもの大綱を引き合う勇壮な攻防が繰り広げられる「川内大綱引」，鹿児島地域の「薩摩硫黄島のメン

ドン」及び「悪石島のボゼ」と共にユネスコ無形文化遺産に登録されている伝統行事「甑島のトシドン」等，個性ある歴史と多彩な文化が継承されています。

（4） 姶良・伊佐地域

姶良・伊佐地域は，霧島市，伊佐市，姶良市及び湧水町の３市１町で構成されています。県本土の中央部に位置し，西は北薩地域，鹿児島地域と，北は熊本県，東は大隅地域，宮崎県と接し，南は鹿児島湾を望んでいます。

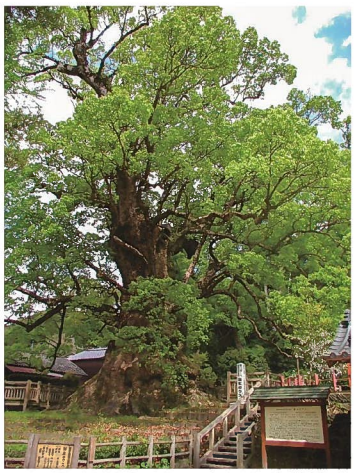
北部の伊佐地域から加久藤カルデラの南縁にまたがる霧島山系とその山麓中央部から南部にかけてのシラス台地，姶良カルデラを形成する鹿児島湾に面する平野部，さらに，川内川流域や天降（あもり）川流域に広がる地域等，多彩な自然に恵まれています。

本県に所在する活火山のうち，本地域にある霧島山（新燃（しんもえ）岳，硫黄山）は近年火山活動が活発です。霧島錦江湾国立公園は20数座の火山や多くの火山湖，噴気現象が景観を特徴づけるとともに，豊富な温泉資源を育んでいます。韓国（からくに）岳の山頂等からは，霧島地域の火山だけでなく，鹿児島湾の方向に桜島や開聞岳等，列状に並ぶ火山を眺望することができます。

隼人塚
（国指定史跡）

鹿児島神宮
（国指定重要文化財）

姶良・伊佐地域には各時代に渡って特徴的な遺跡があります。主なものとして，縄文時代早期で国内最古・最大級の集落遺跡であり国の史跡に指定されている「上野原遺跡」，同時期の標式遺跡である手向山（たむけやま）遺跡，平栫貝塚（ひらがこい），縄文時代後期の遺物が多量に出土し九州内外の地域との交流を示す干迫（ほしざこ）遺跡等が挙げられます。また，古代から中世では「隼人塚」，「大隅国分寺跡」や国分寺の瓦を製作した「宮田ヶ岡（みやたがおか）瓦窯跡」，鹿児島神宮周辺は「大隅正八幡宮（しょうはちまんぐう）境内及び社家（しゃけ）跡」等の国の史跡があり，隼人や国分といった地名の由来にもなる等当地域を代表する遺跡です。



蒲生のクス
（国指定特別天然記念物）

日本遺産を構成する麓としては，蒲生（かもう）麓があり，構成文化財の一つである蒲生八幡神社には，根回り33.5ｍの「蒲生のクス」がそびえ立っており，日本で一番大きなクスノキとして，国の特別天然記念物に指定されています。また，日本最古の焼酎の墨書

の記録が残る「八幡神社本殿附宮殿」，歴史的な古道である「大口筋（白銀坂　龍門司坂）」，ニニギノミコトを祀り６世紀の創建とも言われる「霧島神宮本殿，幣殿，拝殿」，「鹿児島神宮本殿及び拝殿，勅使殿　摂社四所神社本殿」，「南浦文之墓」，「白金酒造石蔵」，「山田の凱旋門」等の貴重な史跡・建造物があります。さらに，明治維新後の我が国の殖産興業期において，九州南部における産業創出とこれを支えた電源・物資輸送の歩みを物語る近代化産業遺産群である「旧曽木発電所本館」，「旧曽木発電所ヘッドタンク」や「ＪＲ肥薩線嘉例川駅駅舎」等もあります。

旧曽木発電所本館
（国登録有形文化財）

吉左右踊・太鼓踊
（国選択・県指定無形民俗文化財）

伝統芸能としては，約460年以上続き鈴かけ馬踊りに代表される初午祭，「加治木のくも合戦」等の伝統行事，演技者と観客が一体化した里神楽特有の雰囲気を残す「菱刈町湯之尾神社の神舞」や，御神牛の祭事と方言を用いた田の神の面白おかしい所作が特徴的な「霧島神宮のお田植え祭り」，島津義弘が文禄・慶長の役の凱旋記念として家臣に習得させたとされ，活発な動きと鮮やかな衣装が目を引く「吉左右踊・太鼓踊」等が伝えられています。

（5）　大隅地域

大隅地域は鹿屋市，垂水市，曽於市，志布志市，大崎町，東串良町，錦江町，南大隅町及び肝付町の４市５町で構成されています。県本土の東側に位置し，西は鹿児島湾に，東は志布志湾から太平洋に面しています。地形は基盤岩からなる山地，火砕流堆積物からなるシラス台地や丘陵地，それらを浸食して発達した河川の下流域に形成された沖積低地と沿岸部の砂丘地の３つに区分されます。山地は高隈山地と肝属山地に分けられ，志布志湾の北部には宮崎県から続く鰐塚山地の一部が延びています。西側の笠野原に代表される広大な台地・丘陵地に対し，東側は志布志湾に注ぐ河川によって広大な肝属平野が形成されています。

鹿児島県のソテツ自生地
（国指定特別天然記念物）

大隅地域は豊かな自然に囲まれ，霧島錦江湾国立公園，日南海岸国定公園，大隅南部県立自然公園及び高隈山県立自然公園の４つの国立・国定公園や県立自然公園が指定されています。また，「鹿児島県のソテツ自生地」や「枇榔島亜熱帯性植物群落」等は，国の特別天然記念物に指定されています。

大隅地域の特徴的な遺跡として，24,000年前頃の狩猟や動物解体のための石器が多量に出土した桐木遺跡や耳取遺跡があり，耳取ヴィーナスを含めて「耳取遺跡出土品」が県の指定文化財となっています。縄文時代では埋葬人骨，岩偶をはじめとする軽石製品が多量に出土した柊原貝塚，弥生時代では祭祀遺跡であり出土遺物が県指定となっている「山之口祭祀遺跡」（出土品は「山ノ口遺跡出土品」）等があります。志布志湾に面した地域には，国の史跡に指定されている「横瀬古墳」,「唐仁古墳群」,「塚崎古墳群」，県の史跡に指定されている「岡崎古墳群」等をはじめ，畿内との関連性の強い古墳群が分布しています。一方で，地域的な墓制である地下式横穴墓が密集する立小野堀遺跡等もあります。また，南九州型城郭の「志布志城跡」や「高山城跡」等の中世山城も国の史跡に指定されています。

山ノ口遺跡出土品
（県指定有形文化財）

横瀬古墳
（国指定史跡）

志布志城跡の麓にある志布志麓には，国の名勝に指定されている「志布志麓庭園　天水氏庭園　平山氏庭園　福山氏庭園」があり，自然地形を利用した庭園が特徴的です。また，「高山城跡」の麓には国の重要文化財に指定されている「二階堂家住宅　おもて　なかえ」があります。日本遺産を構成する麓としては，垂水麓と志布志麓の２つがあります。

二階堂家住宅　おもて　なかえ
（国指定重要文化財）

戦争関連の遺跡も特徴的で，県の史跡に指定されている「根占原台場跡」をはじめ，幕末期に沿岸部に築かれた薩摩藩の砲台跡があり，明治期の西南戦争関連では，岩川の「官軍墓地」をはじめ，各地に戦没者の慰霊碑が残されています。また，太平洋戦争関連では，特攻基地として知られる鹿屋・串良をはじめ，岩川等の海軍航空基地関連遺構や湾岸部防衛のために築かれたトーチカ等，各地に多くの戦争に関する遺跡が残されています。

大隅町岩川八幡神社の
弥五郎どん祭り
（国選択・県指定無形民俗文化財）

民俗文化財では，県の無形民俗文化財に指定され豊作を祈願する田打ちや種まき行事，正月踊りが展開され地域ごとに特色のある「山宮神社春祭りに伴う芸能」，高さ５ｍ近

い大人形の組み立て・起こしと浜下りからなり，観光資源としても有名な「大隅町岩川八幡神社の弥五郎どん祭り」，無数の御幣をまとった鬼が参詣客の中を暴れ回る「末吉町熊野神社の鬼追い」等の多様な民俗芸能や伝統行事があります。

（6）　熊毛地域

熊毛地域は，西之表市，中種子町，南種子町及び屋久島町の１市３町で構成されています。九州本土の最南端の佐多岬から，南東方向約 40㎞にある種子島・馬毛島と，南西方向約 60km にある屋久島・口永良部島の４島からなっています。地形は，基盤層が隆起した平坦部と周辺の河岸段丘からなる最高地点 282 ｍの種子島や馬毛島と，九州最高峰の宮之浦岳（1,936 ｍ）をはじめとする 1,000m 級の山々からなる屋久島とでは対照的です。口永良部島は，瓢箪の形をした火山島で，現在も活発な火山活動が続いています。

ヤクシマカワゴロモ生息地
（国指定天然記念物）

熊毛地域は，琉球列島の北部に位置することから多様な動植物相を形成しています。屋久島は，低地の亜熱帯植物帯から山頂付近の亜高山帯植物群落まで植生の垂直分布が見られ，国の特別天然記念物に指定されている「屋久島スギ原始林」や国の天然記念物の「ヤクシマカワゴロモ生育地」等が分布しています。また，口永良部島は，屋久島とともに屋久島国立公園に指定されています。

立切遺跡（大津保畑地区）
（県指定史跡）

熊毛地域には，旧石器時代から多くの遺跡が確認されており，特に先史時代においては，全国的に見ても重要な遺跡が存在します。県の史跡に指定されている「立切遺跡」や「横峯遺跡」では，県内最古級の 35,000 年前頃の調理施設跡や落とし穴，石器等が発見されています。また，奥ノ仁田遺跡や三角山遺跡では，縄文時代草創期の土器や石器が大量に出土しています。さらに，国の史跡に指定されている「広田遺跡」では，本土と南島との交易を示す多量の貝製品が弥生時代から古墳時代までの墓から出土しています。これらの「鹿児島県三角山遺跡出土品」や「鹿児島県広田遺跡出土品」は，国の重要文化財に指定されています。

広田遺跡出土品
（国指定有形文化財）

中世になると，種子島に漂着したポルトガル人により鉄砲が我が国に初めてもたらされました。また，屋久島には，宣教師のシドッチが上陸する等アジアやヨーロッパの玄関口として重要な役割を果たしてきました。

また，国の重要文化財に指定されている「古市家住宅」や国の無形民俗文化財に指定されている「宝満神社の御田植祭」や，県の無形民俗文化財に指定され，上方から伝わったとされ大人数で円陣になって踊られる「西之表市現和の種子島大踊」，祝宴の座でのおどけたしぐさや問答がユーモラスで味わいがある「南種子町平山の座敷舞」等があります。さらに，西之表市の榕城周辺の武家屋敷群は，麓集落の南限域に当たります。

古市家住宅
（国指定重要文化財）

種子島大踊
（県指定無形民俗文化財）

（7） 大島地域

大島地域は奄美市，大和村，宇検村，瀬戸内町，龍郷町，喜界町，徳之島町，天城町，伊仙町，和泊町，知名町及び与論町の１市９町２村で構成されています。トカラ列島から海峡をはさんで沖縄島までの間に弧状に島々が連なっており，喜界島・奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島・徳之島・沖永良部島・与論島の８つの有人島があります。

地形から，本群島は大きく二分できます。奄美大島，加計呂麻島，請島，与路島及び徳之島北東部は，主として中生代の深海に堆積した地層とこれを貫く火成岩からなる急峻な山稜性の地形で，海岸線は変化に富み，河川はいずれも短小急流です。喜界島，徳之島南西部，沖永良部島及び与論島は琉球石灰岩，いわゆる隆起サンゴ礁が分布し，低平な段丘状の地形で，砂浜，鍾乳洞等には恵まれている反面，河川は多くありません。

また，奄美群島は「アマミノクロウサギ」をはじめ「オオトラツグミ」,「ルリカケス」，アマミエビネ，アマミセイシカ等の貴重な野生動植物が生息・生育する亜熱帯照葉樹林や美しいサンゴ礁の海等，多様で豊かな自然環境を有するとともに，人と自然の関わりを示す有形無形の文化景観を有することから，平成 29（2017）年３月には奄美群島国立公園に指定されています。

なお，奄美群島の歴史をひも解くと，本土との関わりをもちながらも，その地理的環境から個性的な文化・歴史が育まれてきたことが分かります。縄文時代晩期の珊瑚礫に四辺を囲われた竪穴住居跡（石組住居跡）は，本土では見られないものであり，「宇宿

貝塚」や「住吉貝塚」等で確認されています。一方で，「宇宿貝塚」や「面縄貝塚」等では本土の土器も発見されており，交流が活発であったことがうかがえます。

古代から中世にかけては，日本国家との関わりの中で交易拠点として成立した「城久遺跡」，中世城郭である「赤木名城跡」等があり，琉球・日本・奄美の交易・政治・軍事を考える上で重要な遺跡です。また，「徳之島カムィヤキ陶器窯跡」で生産されたカムィヤキは，日本と朝鮮半島双方の特徴を有する独自の焼き物であり，支群に分かれて100基ほど存在したと推定され，当時の窯業を示す貴重な遺跡です。これらは，いずれも国の史跡に指定されています。

大島地域ではシマ唄や，豊年祭に大和の能狂言や沖縄の芸能が加わって成立した「諸鈍芝居」，新節に行われ小屋を揺らす躍動的な儀式と２つの岩でノロが中心となり歌い踊る「ショチュガマ及びヒラセマンカイ」に代表される「秋名のアラセツ行事」，大和と沖縄と当地の独特な雰囲気が合わさった「与論の十五夜踊」等の各種祭り等に代表される多様で個性的な伝統行事や民俗文化財が伝承されています。

また，明治時代に建造された「泉家住宅　おもてとぉごら　くら」は，国の重要文化財に指定されています。その他，大正時代から昭和には奄美大島要塞が建設される等，南の防衛拠点としての遺構が数多く残されているのも当地域の大きな特徴の一つです。

城久遺跡
（国指定史跡）

徳之島カムィヤキ陶器窯跡
（国指定史跡）

ショチュガマ
（国指定無形民俗文化財）

泉家住宅（おもて）
（国指定重要文化財）